グローブシップ

「働き方改革とニューオフィス」をテーマにオンラインで開催

第5回「お取引先Webセミナー」

グローブシップ㈱（本社：東京都港区、矢口敏和社長）は、毎年恒例となっている「お取引先セミナー」を、昨年に続き今年もWeb上のオンラインで開催した。これは同社が2017年から毎年テーマを決めて顧客を対象に行っているもので、新型コロナウイルスの感染が未だ完全には終息していないことから、5回目となる今回も二度目のWebでの公開となった。セミナーは二部構成で、今年のテーマである「働き方改革とニューオフィス」について有益な情報が発信された。

挨拶する矢口社長

二度目のオンライン開催にあたり、同社の矢口敏和社長は、新型コロナの感染対策が起点となり社会が大きく変わったとの認識を示した上で、中でも社員の働き方や企業運営の在り方の変化が顕著になったと語った。

これまでの働く時間と場所を固定する働き方からテレワークやリモート会議などネットやオンラインを活用した、より柔軟で合理的な働き方や仕事の進め方が急速な広がりを見せている。こうした動きは新型コロナの発生前から一部の企業の間にはあったが、コロナ禍で本格的に加速され定着しつつある。この動きは日本だけではなく世界的な傾向であり、新型コロナの感染が終息した後も変わらないと言われている。

そうした環境の中で企業は、社員たちのモチベーションを引き上げ、コミュニケーションを可能にした上で、質の高い仕事と高い生産性を実現することが求められている。その帰結として、オフィスやワークプレイスの役割や使い方がこれまでと大きく変わる可能性を秘めている。

グローブシップの設立時の企業理念は「顧客に安全快適な環境を提供する」ことであり、その願いは顧客の戦略FMパートナーになるということから、今回のセミナーは先のような現状認識に立ちテーマを「働き方改革とニューオフィス」とした。

セミナーは対談とディスカッションの二部構成で行われ、第一部では今回のテーマでコクヨ㈱ワークスタイル研究所所長の山下正太郎氏とグローブシップ㈱専務取締役の佐藤武男氏が対談した。

対談する山下氏（右）と佐藤専務

山下氏はアメリカのGAFA（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンの4大IT企業）をはじめ、これまで多くの欧米企業のオフィスについて研究。その知見を活かし日本の企業に対して戦略的なオフィスの在り方やワークスタイルについて提案を行っている。

同氏は対談の中で、仕事の生産性を上げて新たなイノベーションを起こしていくには、オフィスワークとテレワークを組み合わせたハイブリッドワークの重要性を強調。佐藤氏とのやり取りでは、❶これまでの働き方とオフィスの変化❷ニューノーマル時代の働き方とオフィス事情❸オフィスおよびリモートワークのハイブリッドな新しい働き方とGAFAなどの海外企業の働き方の変化という三つのトピックスについて、互いに意見を取り交わした。

「働き方改革とニューオフィス」について解説する山下氏

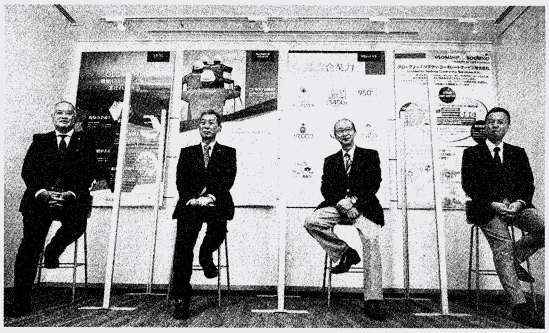
9月に本社オフィスのレイアウトを全面変更

そして第二部では、「ニューオフィス時代のわが社の取組み」というテーマでグローブシップの担当者によるディスカッションが行われた。グローブシップは中期経営計画の一環としてこの1年間、新しい働き方について様々な検討を重ねてきた。その結果、創造性の発揮と生産性の向上ができる職場とワクワクする職場を目指すことを決め、現在具体的な働き方や仕事の進め方の改革に着手している。その手始めとして9月に本社オフィスのレイアウトを全面的に変更。フリーアドレスを原則としてフロアごとにオフィス環境のコンセプトを決定した。

その上でレイアウトを柔軟に設計し、集中して仕事をするスペースやリラックスしてミーティングができるエリアを設けるなど多様な働き方に対応するオフィスに生まれ変わった。

ディスカッションではそれらの詳細について、同社の瀬本陽一郎常務取締役が司会進行役を務め、FMグローバル事業（諸橋勝悟氏）、ロボットFM開発（渡辺健一郎氏）、工事（元澤弘幸氏）担当の3人の部長が、これからのニューオフィス時代にグローブシップがどのようなサービスを展開して顧客の役に立っていくかという観点に立ってそれぞれ説明を行った。

具体的には第一部の対談を受け、顧客自身が働き方やオフィスの在り方を大きく変え、多様化していくという前提で、その変化するニーズにグローブシップがどのように応えていくかについて❶ロボットなどを活用した提案❷働き方に合わせたレイアウト工事の提案❸その他の様々なファシリティマネジメントの提案を紹介した。


自社の取組みについてディスカッションした左から
瀬本常務、諸橋部長、元澤部長、渡辺部長